

長距離自然歩道 北海道自然歩道について

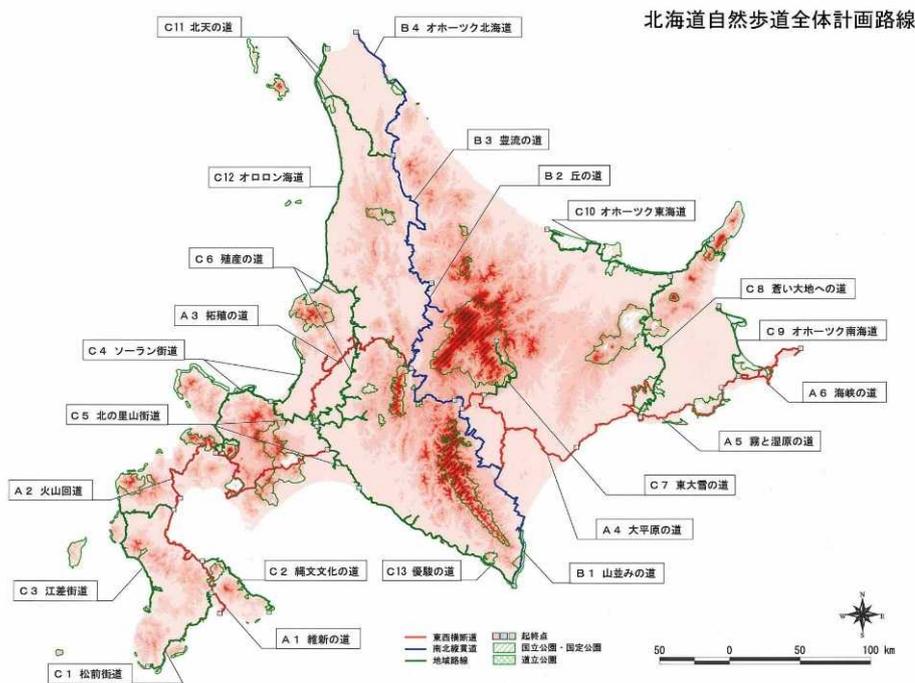
○ 長距離自然歩道とは

多くの人々が四季を通じて手軽に楽しくかつ安全に、国土の優れた風景地等を歩くことにより、沿線の豊かな自然や歴史、文化に触れ、国土や風土を再認識し、併せて自然保護に対する意識を高めることを目的とするもので、自然景観や文化財等に恵まれた既存の道路を、標識等の整備によりネットワーク化した長距離の自然歩道である。

環境省が計画し、各都府県が事業主体となって整備を進めており、昭和45年（1970年）の東海自然歩道に始まり、これまで九州・中国・四国・首都圏・東北・中部北陸・近畿と8つの自然歩道が整備されている。

全国で9番目となる北海道自然歩道は、平成15年に計画が策定され、整備がはじまった。計画路線の延長距離は4,599kmで全国最長。天然林主体の広大な森林や湿原といった豊かな自然景観、広大な牧場や畑、防風林といった牧歌的な田園風景など北海道を代表する地域の歴史的・文化的資源等を結ぶ歩道のネットワークを構築するものとなっており、整備が完了すれば、全国の長距離自然歩道の総延長距離は約2万6千kmに及ぶこととなる。

○ 全体計画路線



○ 知床地域について

知床地域は「オホーツク東海道」（未整備路線）に含まれているが、斜里町ウトロ～知床峠から羅臼町湯ノ沢町は連絡路線と位置づけている。

※ 連絡路線：一般利用者が手軽に利用しにくい区間であり、バスや鉄道等を利用してその先の路線に向かうこととしている。

○ 経緯等

- ・ 環境省が平成15～24年度の10カ年とする整備計画を策定し、これに基づいて道は、平成15～17年度の3カ年について、国の交付金等を受けて標識等の整備を実施した。（胆振、渡島、上川、十勝、釧路地区内）
- ・ しかしながら、道財政の危機的状況から平成18年度以降の整備が休止となり、平成24年度で整備計画も終了した。
- ・ 現在においても、依然として歳出削減を進めている状況から未整備の路線や区間に係る整備再開の目途はついていない。
- ・ なお、三位一体改革により平成17年度から国立公園内の「長距離自然歩道」の整備については環境省が実施することになった。